

プラクティスに心を込めて 聖ヨセフのゆりの花 校長 Sr. 大山 江理子



伝統的な聖ヨセフの絵

12月を迎え、季節は急速に冬に向かっていきます。11月は感染流行が落ち着いて、学校でも活動を拡げることができました。冬休みまで充実して過ごしたいものです。

クリスマスに向けてプラクティスが始まります。今年にはヨセフ様に注目します。聖ヨセフはイエスの父、マリアのパートナーですが、聖書にはごく限られた場面しか登場しません。マタイによる福音書1章と2章にあるイエスの誕生にまつわる物語、そしてルカによる福音書2章にある誕生物語と12歳のイエスが神殿詣でからの帰りに父母とはぐれてしまうエピソードです。イエスの誕生物語ではお告げを受けるマリアに光があたりますが、マタイによる福音書には神の恵みによる許嫁の思いがけない妊娠を知り、信仰のうちにそれを受け入れる聖ヨセフの姿が記されています。聖ヨセフは影の存在として、しかし、力強くマリアとイエスを支えています。

親子の関わりが聖書に記されることはなく、12歳のエピソードでマリアがイエスに対して「お父さんもわたしも心配して捜していた」と言う言葉の中に、ヨセフの存在がうかがわれるばかりです。そして、この後には記述がないために、イエスが成人になる前に逝去したのではないかとされています。

教皇フランシスコは昨年12月から1年間をヨセフ年として、聖ヨセフに倣う年としました。聖ヨセフは目立たない存在ですが、重要な役割を担っています。聖ヨセフがマリアの言葉を信じて受け入れ、信仰の内に神からのものと確信する姿勢には倣うべきものがあります。目立たないことにも誠実を尽くし、日常生活を丁寧に生きる静かな勇気は、マリアの姿と響き合います。

今月はマリアの無原罪を讃えるゆりの行列も行います。ゆりの花は感ずべき御母の絵にも描かれるマリアの心の清らかさの象徴ですが、聖ヨセフもゆりの花を持った姿で描かれることがあります。神から選ばれたことの象徴として、聖ヨセフの持つ杖からゆりの花が咲き出たという伝承に基づいています。イエスの父となるという神からの呼びかけに応え、その使命に生きる清廉さ、従順さ、誠実さを表します。

今年のプラクティスでは、目立たないところでも人のために尽くすことにも努力します。ゆりの行列のときには、聖ヨセフのゆりの花も思い起こして、誠実に生きる姿勢を目ざして子どもたちと共に祈ります。クリスマス・新年に向けて華やかなことに目が向きがちですが、ほんとうに大事なことを見きわめて、心を込めてイエスのご降誕を迎えたいと思います。



聖堂の聖ヨセフ像(マルコによる福音書6:3に基づいて大工の姿に描かれている)

感染者数の減少に伴い、後期に入り様々な行事を行っています。11月には、2年ぶりに校外での遠足を行い、異学年との縦割りによるオリエンテーリングや、校外学習を想定したグループ活動、社会科の学習を兼ねての見学と各学年多様な取り組みがありました。私たち教師にとってコロナ感染症の拡大に対し、思うような教育活動ができない歯痒さがありますが、今年我慢すれば、来年は発展的な活動も可能になるかもしれないと期待する気持ちがあります。でも、子どもたちにとっては「今」しかできないことが山ほどあり、その学年で身につけてほしい大切な学びが沢山あることを改めて知る機会となりました。

異学年交流から帰った3年生からは、下級生の世話をしながら活動する大変さの声と共に、2年前1年生だった自分たちを世話してくれた上級生を尊敬する言葉が多く聞かれました。遠足後の学校生活の中では、休み時間に2年生が3年生の教室の中をじっと眺めている姿が見られ、3年生が憧れの存在になったことが伺われます。遠足をきっかけに両学年の関わりは更に広がり、2年生が覚えている九九を、3年生が「小さな先生」になって耳を傾けている微笑ましい姿があります。

また、聖フィリピン・デュシェーンの日講演会での2人の卒業生の話も、子どもたちの心に響くものでした。成長期の子どもたちにとって、ロールモデルとなる存在との出会いは、自分の未来を思い描くことに繋がります。「諦めない心」「私は私でいい」「想像力をもつ」「人のために何ができるかを考え、それを喜びとする」ことを実践し、社会で生き生きと活躍する卒業生の存在は、これから生きる子どもたちにとって大きなメッセージとなったことでしょう。

上級生や卒業生の姿から学ぶことの意味は大きいと感じます。保護者の方や教師が同じことを伝えてもなかなか聞く耳を持たない子どもたちが、少し違う立場の人の言葉で行動が変容することがあります。子どもたちが自分の未来を思い描き学びへの意欲に繋がるよう、校内においては異学年との交流や卒業生との出会いの場を、そして校外でも様々な方との出会いがあるよう工夫してまいります。



【3年生の作文より】

○いつでも3年生の方が出来るわけではなく、2年生にも「自分のとくいなこと」があることがあって、時には3年生よりも出来ることもあるのだなと思いました。(N.K)

○わたしはこの遠足で、何が本当のうれしさなのかということ学んだ気がしました。自分だけが楽しんでさっさと行くのではなく、2年生が楽しいと思うことができるような遠足にすることが一番のうれしいことだと感じました。(K.O)

【2年生の作文より】

○お姉さまとまたあそびたいと思いました。学校に帰ってお姉さまに「また、こんど会えたらいいね。」と言ってところが晴れました。(M.I)

○トラブルがいっぱいでしたが、3年生のお姉さま方が、まわりの人に聞いてくださったり、手当てをしてくださったり、わたしたちをたすけながらすすんでくださいました。わたしも、こんなお姉さまになりたいなと思いました。(A.D)



\* 喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます。

鎌田 美保子 教諭 ・ 藤江 倫世 教諭 ・ 山口 真 教諭

12月の行事

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 1日(水) 作文発表会(4限 1-3年)    | 13日(月) 6年CW練習(5-6限) |
| 2日(木) 6年CW練習(1限)        | 15日(水) 大掃除          |
| 6日(月) ハイチデー②/ゆりの行列(2nd) | 16日(木) 午前授業         |
| 1年・転入・編入保護者会            | CWリハーサル(3-4限)       |
| 8日(水) ゆりの行列(1st)        | 6年CW練習(13:20-14:30) |
| 9日(木) 6年CW練習(1-2限)      | 17日(金) クリスマス・ウィッシング |
| 10日(金) 面接日・午前授業         | 20日(月) 信者静修会        |



今年のクリスマス・ウィッシングのテーマ  
“Christmas in the Manger”  
~Peace and Hope~  
ゆりの行列 クリスマス・ウィッシングのプラクティス  
「勇気を出して一歩ふみ出す～ヨセフ様のように～」

